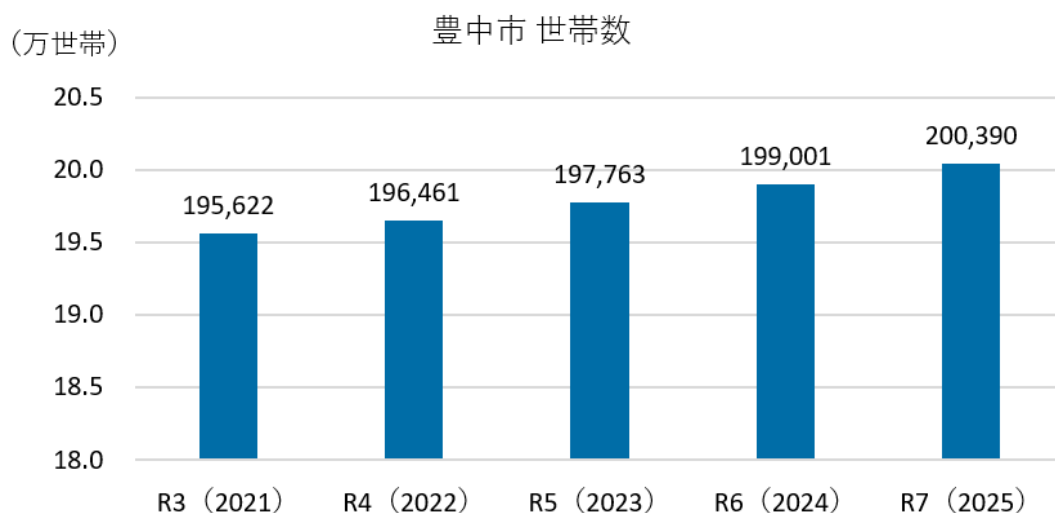


2 世帯

2.1 世帯

(1) 全市域

令和 7 年（2025 年）における豊中市の世帯数は 200,390 世帯となった¹。人口が令和 3 年（2021 年）から減少傾向にあるのに対し、世帯数は一貫して増加し続けている。令和 7 年の世帯数は、令和 3 年から 4,768 世帯（2.4%）の増加である。平成 30 年（2018 年）から令和 4 年（2022 年）までの増加数は 5,924 世帯（3.1%）、令和元年（2019 年）から令和 5 年（2023 年）までの増加数は 4,879 世帯（2.5%）だったため、増加のペースは年々緩やかになっている。

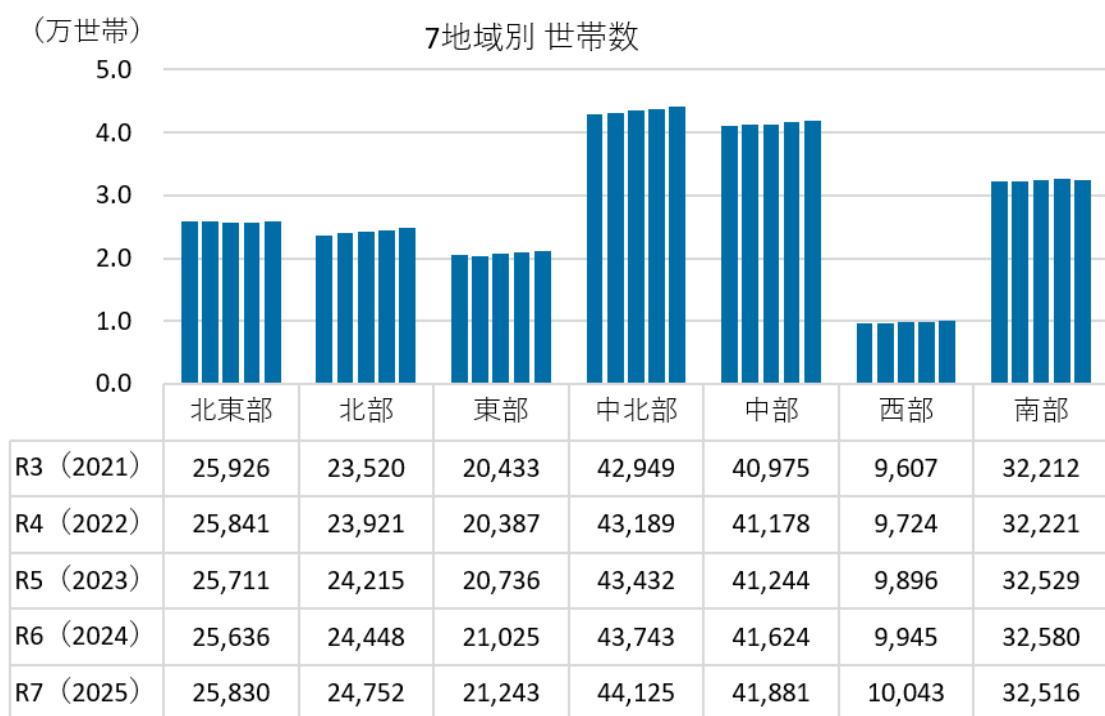


(2) 7 地域

令和 7 年（2025 年）における世帯数は、中北部（44,125 世帯）、中部（41,881 世帯）、南部（32,516 世帯）の順で多い。

令和 3 年（2021 年）からの世帯の増加数は、多いほうから順に北部（1,232 世帯・5.2%）、中北部（1,176 世帯・2.7%）、中部（906 世帯・2.2%）、東部（810 世帯・4.0%）、西部（436 世帯・4.5%）、南部（304 世帯・0.9%）である。唯一、北東部では世帯数の減少が見られる（▲96 世帯・▲0.4%）。

¹ 本レポートでは、世帯の集計にあたり居住実態はふまえていない。同じ住居に住んでいても別世帯として住民基本台帳に登録されている場合は、異なる世帯としてカウントされている。



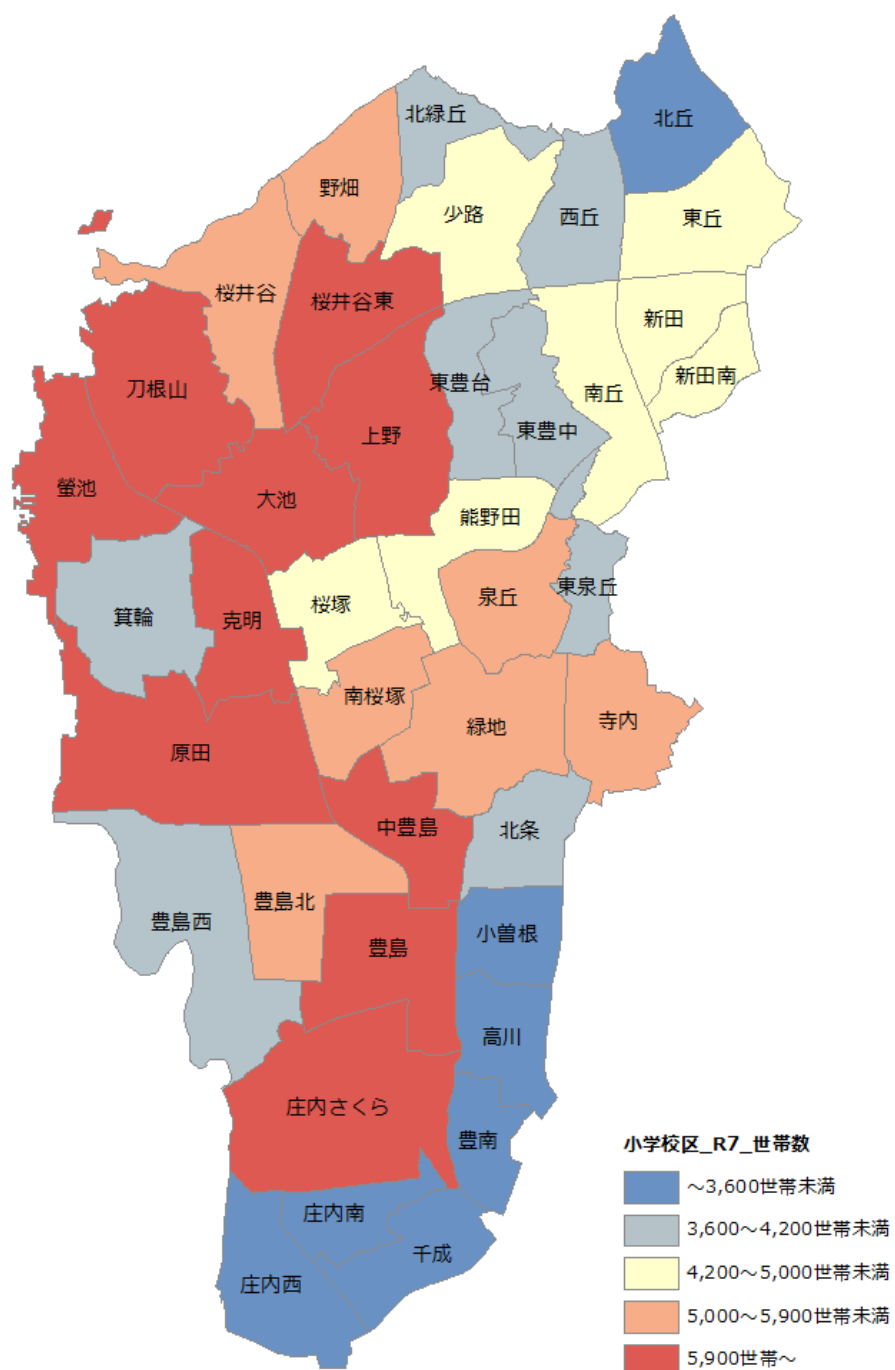
(3) 小学校区

令和 7 年（2025 年）の世帯数を小学校区別に見ると、世帯数が多い校区は順に、庄内さくら（13,845 世帯）、豊島（7,817 世帯）、刀根山（7,516 世帯）、大池（7,082 世帯）、上野（7,057 世帯）である。世帯数が少ない校区は、千成（3,284 世帯）、北丘（3,346 世帯）、高川（3,389 世帯）、豊南（3,394 世帯）、庄内西（3,416 世帯）である。

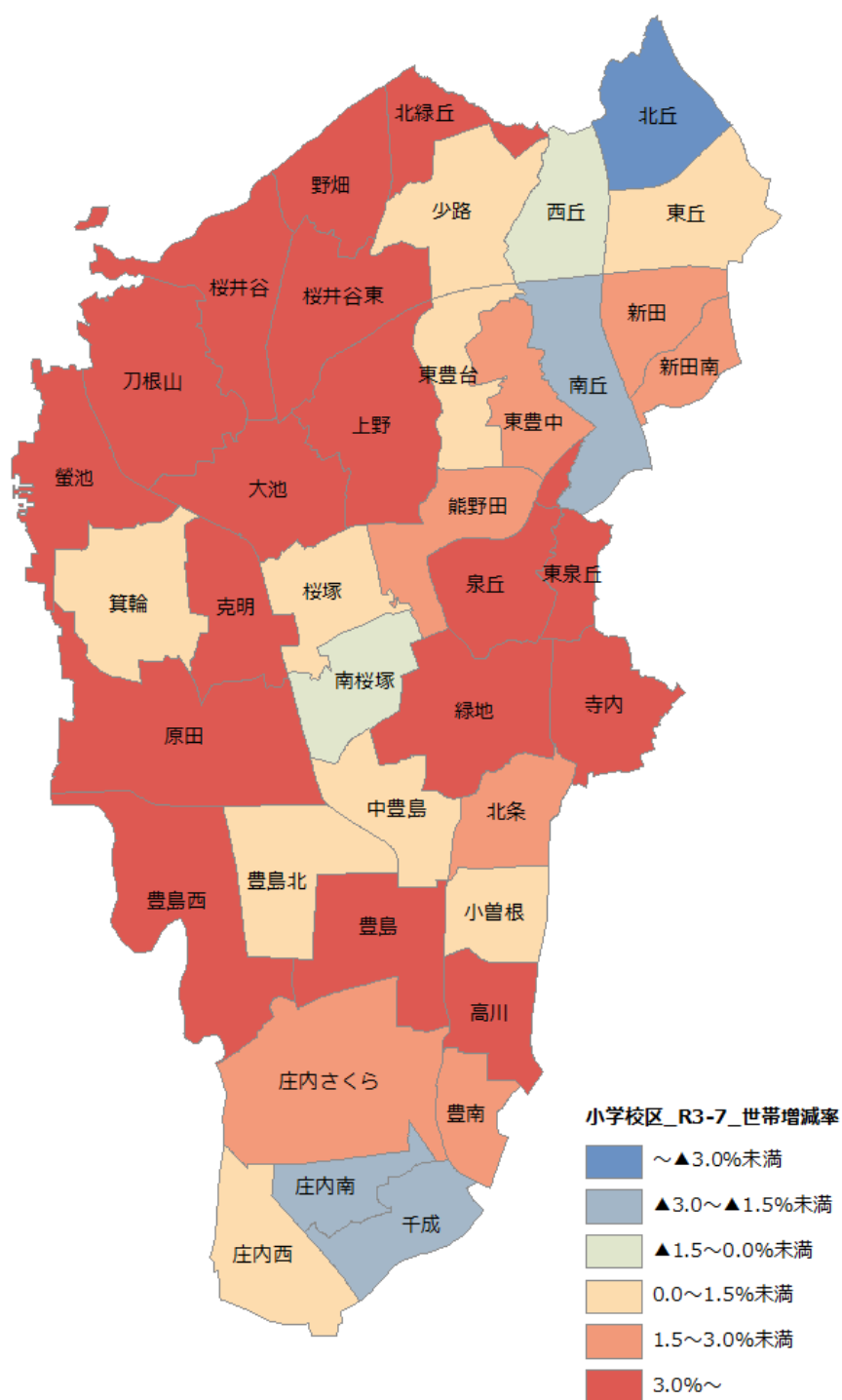
令和 3 年（2021 年）からの世帯数の増加率が高い校区、減少率が高い校区はそれぞれ以下のとおりである。

世帯数の増加率が高い小学校区					世帯数の減少率が高い小学校区				
校区名	R3	R7	増加数	増加率	校区名	R3	R7	減少数	減少率
北緑丘	3,236	3,663	427	13.2	北丘	3,567	3,346	▲ 221	▲ 6.2
桜井谷	5,136	5,496	360	7.0	南丘	4,898	4,796	▲ 102	▲ 2.1
寺内	4,991	5,316	325	6.5	千成	3,350	3,284	▲ 66	▲ 2.0
東泉丘	3,415	3,600	185	5.4	庄内南	3,659	3,599	▲ 60	▲ 1.6
螢池	5,883	6,177	294	5.0	西丘	3,649	3,601	▲ 48	▲ 1.3

小学校区別 令和 7 年（2025 年）世帯数



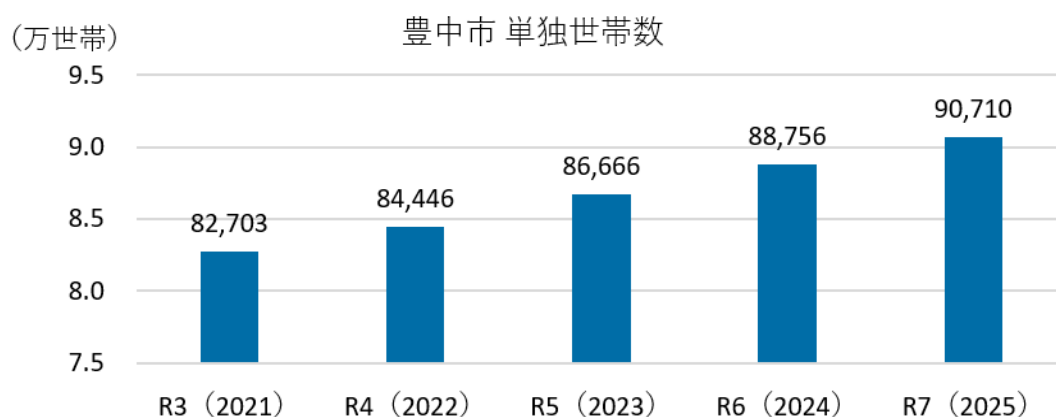
小学校区別 令和 3～7 年（2021～2025 年）世帯数増減率



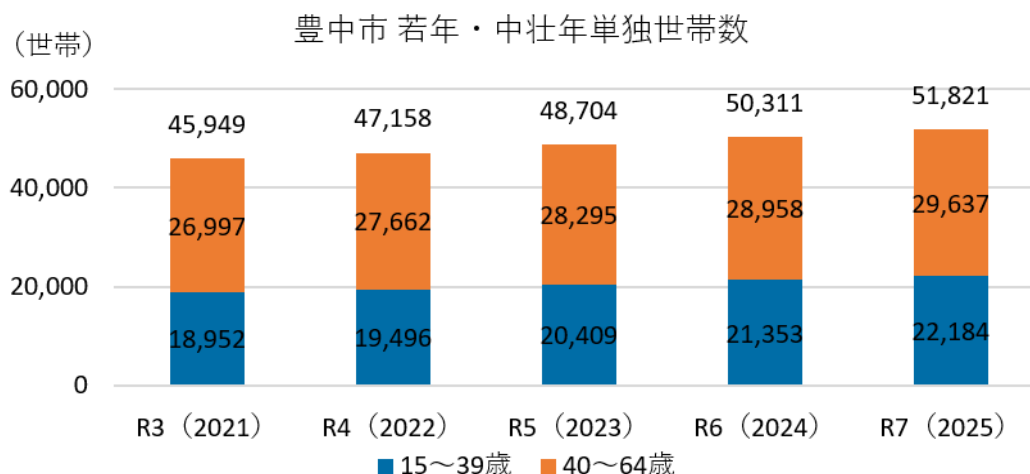
2.2 単独世帯

(1) 全市域

単独世帯（1人のみで構成された世帯）は増加傾向にある²。令和7年（2025年）の単独世帯の数は90,710世帯であり、令和3年（2021年）からは8,007世帯（9.7%）の増加となっている。平成30年（2018年）から令和4年（2022年）までの増加数は7,260世帯（9.4%）、令和元年（2019年）から令和5年（2023年）までの増加数は7,310世帯（9.2%）だったため、増加のペースは若干上がっているように見える。

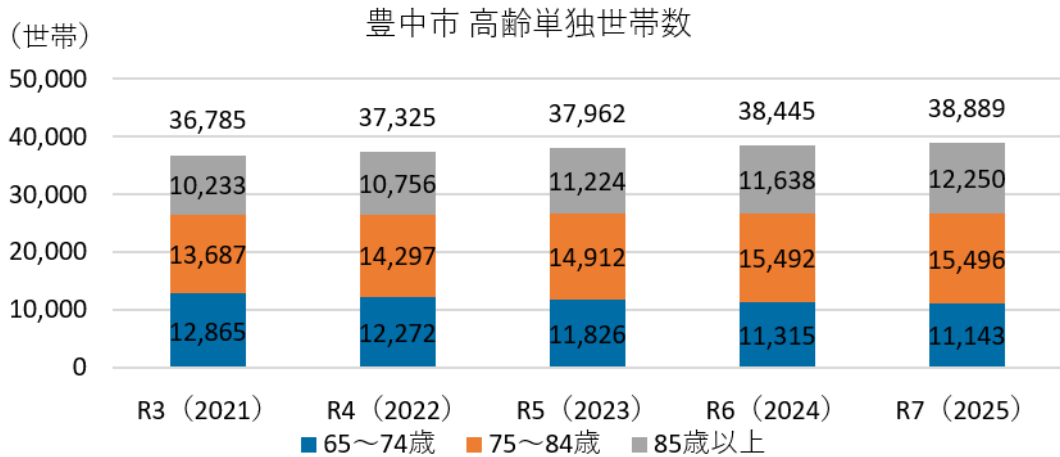


若年・中壮年層（15～64歳）の単独世帯は、令和3年（2021年）からの5年間で、45,949世帯から51,821世帯へ、5,872世帯（12.8%）の増加である。



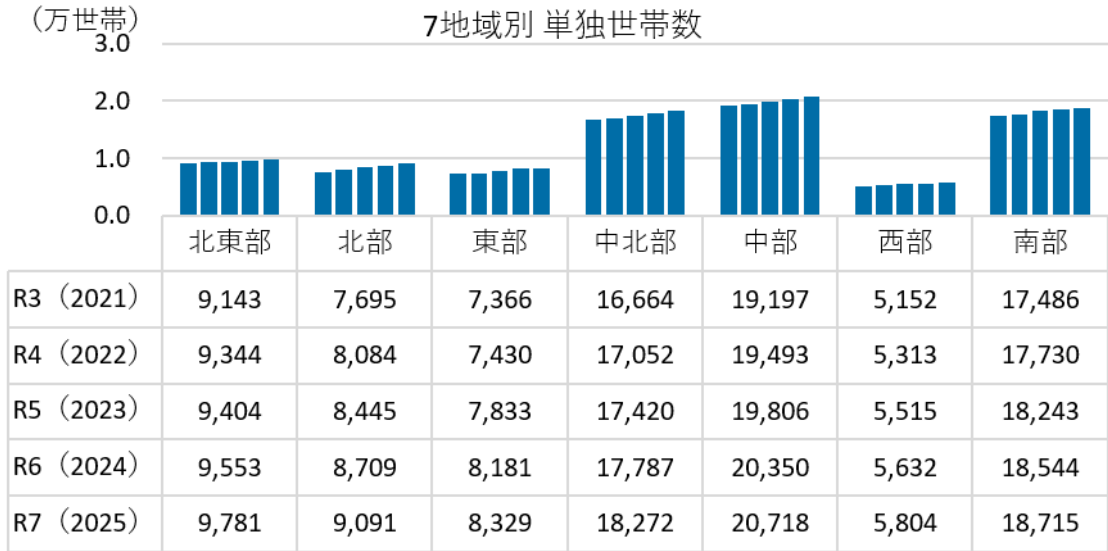
² 本レポートでは、1つの世帯番号に1人のみが登録されている場合を単独世帯として集計しており、居住実態は反映していない。

高齢者（65歳以上）の単独世帯は、令和3年（2021年）からの5年間で、36,785世帯から38,889世帯へ2,104世帯（5.7%）の増加である。なかでも85歳以上の単独世帯は2,017世帯（19.7%）の増加となっている。



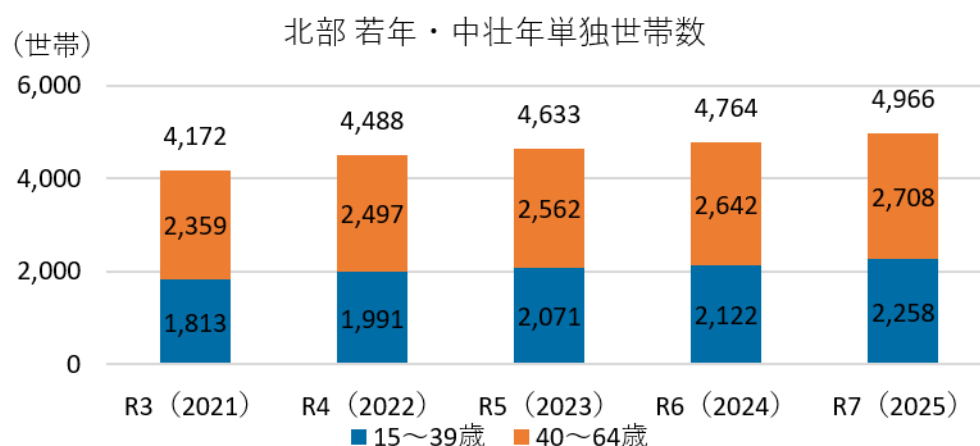
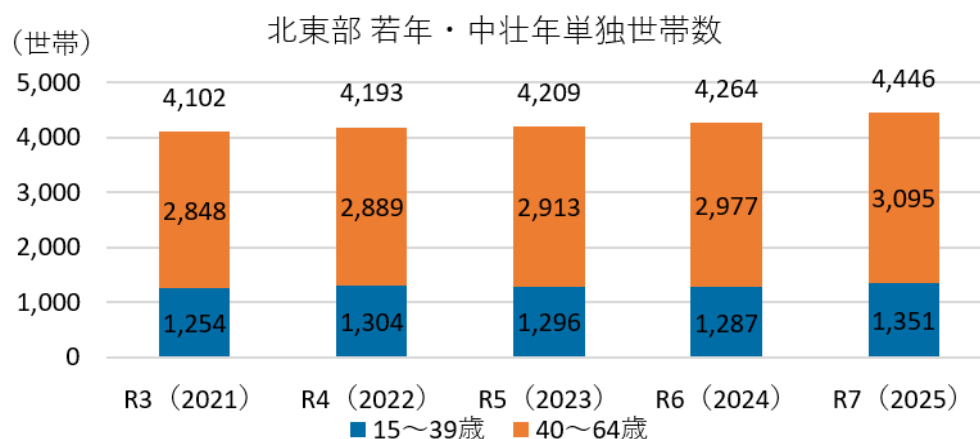
(2) 7 地域

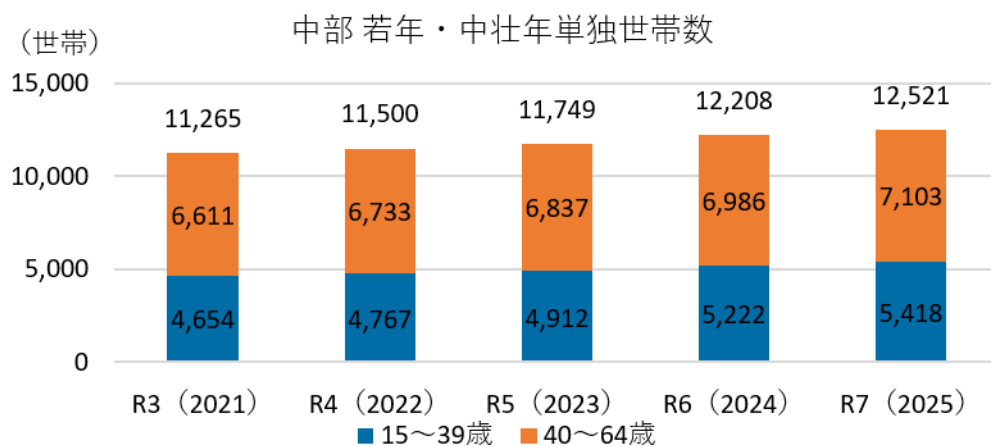
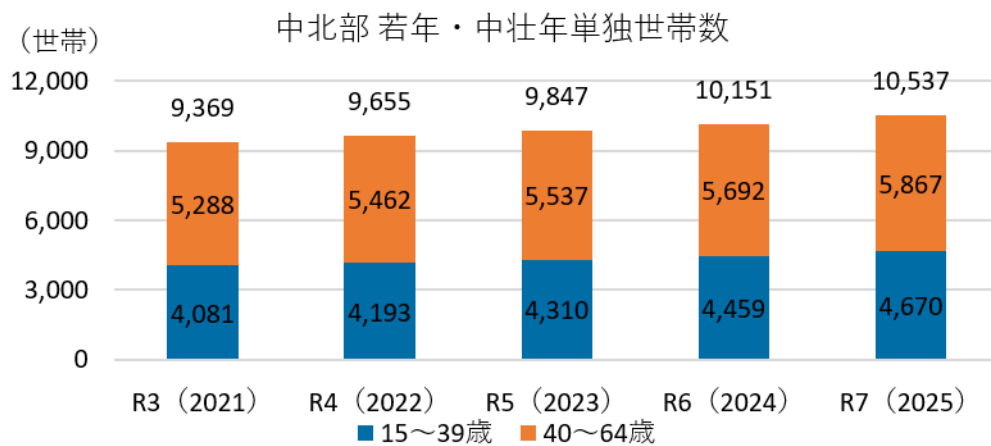
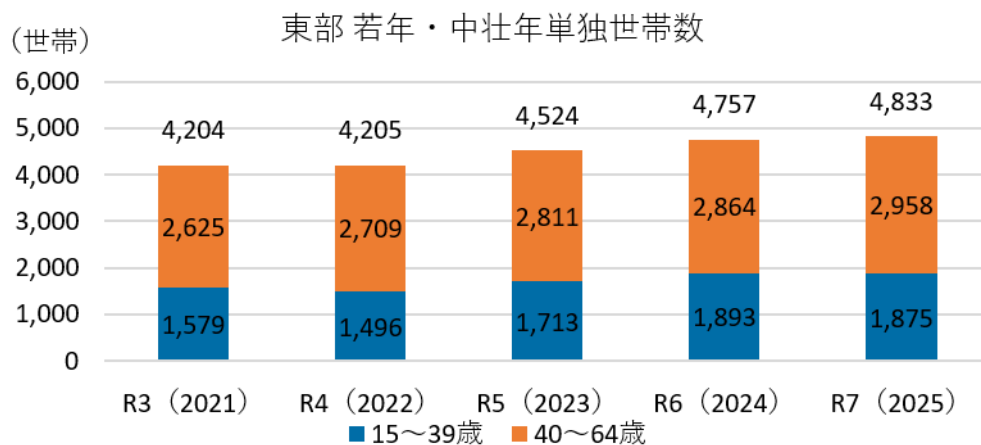
いずれの地域でも、単独世帯は増加傾向にある。令和3年（2021年）から令和7年（2025年）にかけての増加数が多いほうから順に、中北部（1,608世帯・9.6%）、中部（1,521世帯・7.9%）、北部（1,396世帯・18.1%）、南部（1,229世帯・7.0%）、東部（963世帯・13.1%）、西部（652世帯・12.7%）、北東部（638世帯・7.0%）である。全世帯数に占める単独世帯数の割合は、西部（57.8%）、南部（57.6%）、中部（49.5%）、中北部（41.4%）、東部（39.2%）、北東部（37.9%）、北部（36.7%）の順に高い。

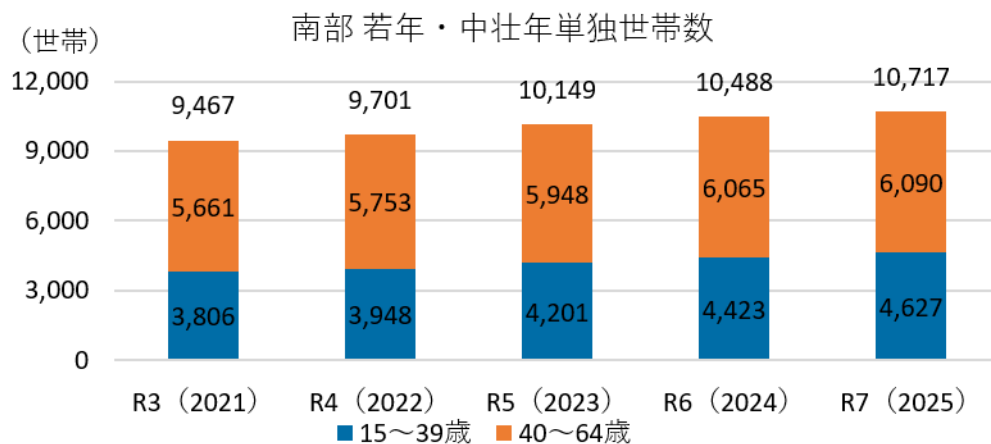
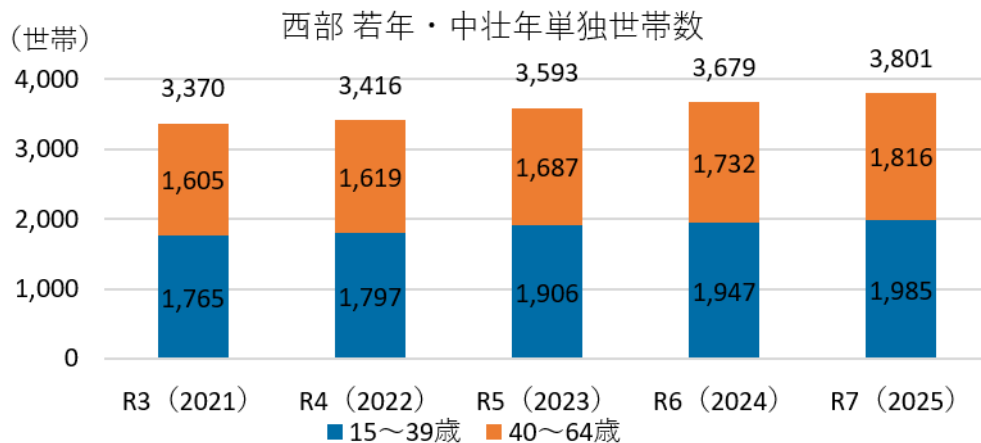


若年・中壮年層の単独世帯について7地域別に見ると、令和7年（2025年）の若年・中壮年単独世帯が多いほうから順に、中部（12,521世帯）、南部（10,717世帯）、中北部（10,537世帯）、北部（4,966世帯）、東部（4,833世帯）、北東部（4,446世帯）、西部（3,801世帯）である。

令和3年（2021年）から令和7年（2025年）にかけての増加数は、多いほうから順に、中部（1,256世帯・11.1%）、南部（1,250世帯・13.2%）、中北部（1,168世帯・12.5%）、北部（794世帯・19.0%）、東部（629世帯・15.0%）、西部（431世帯・12.8%）、北東部（344世帯・8.4%）である。

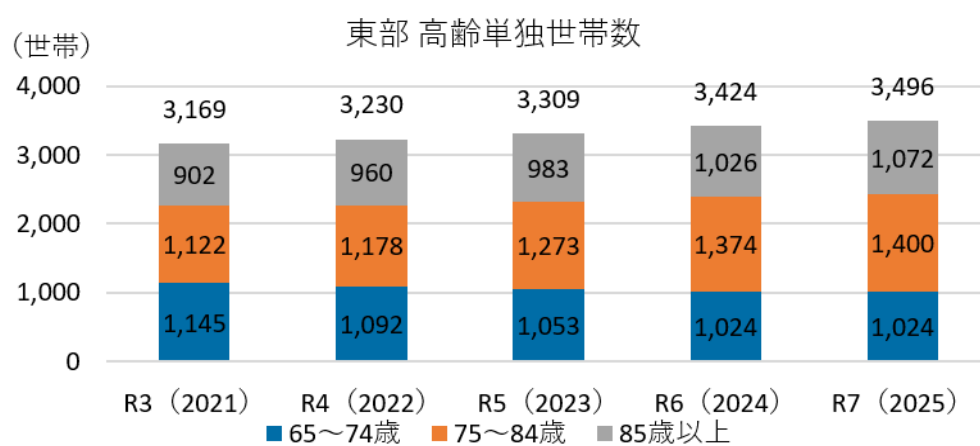
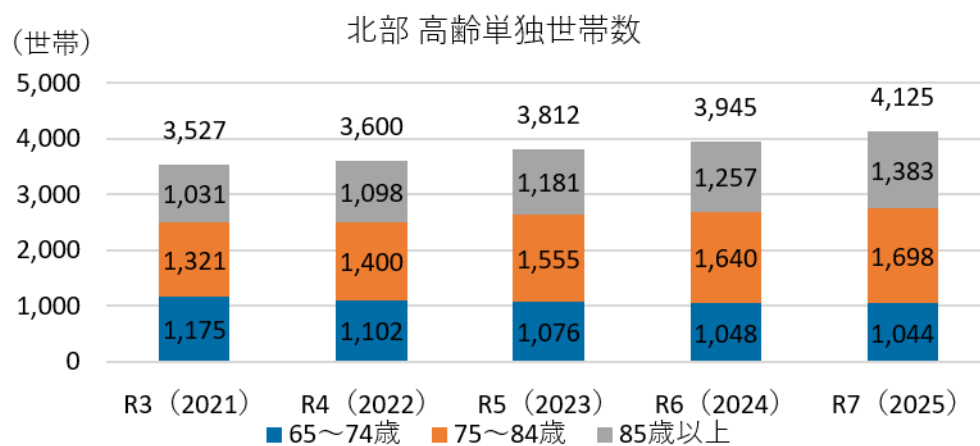
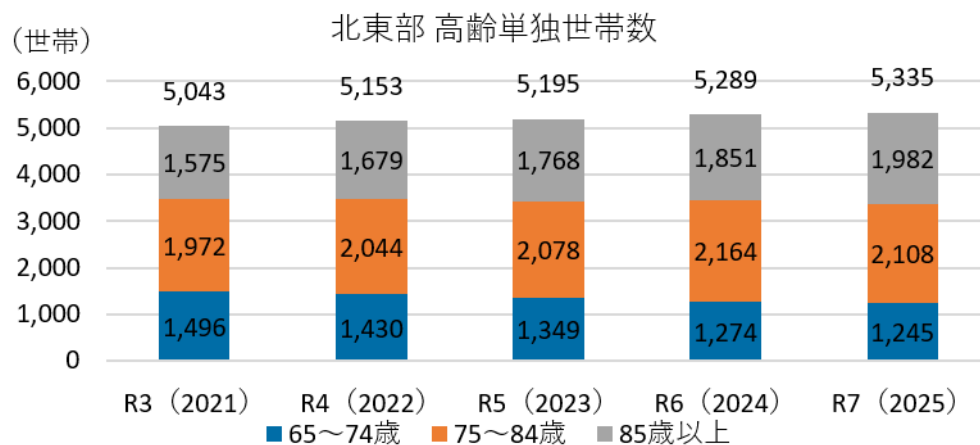


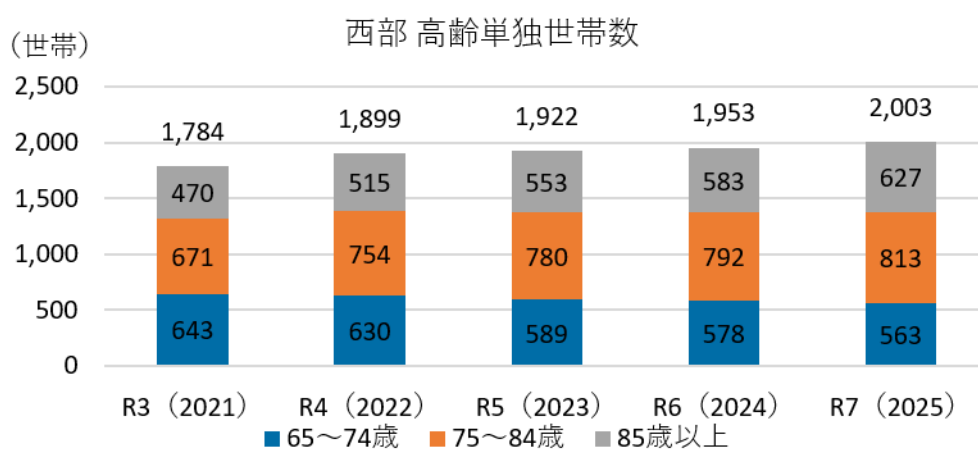
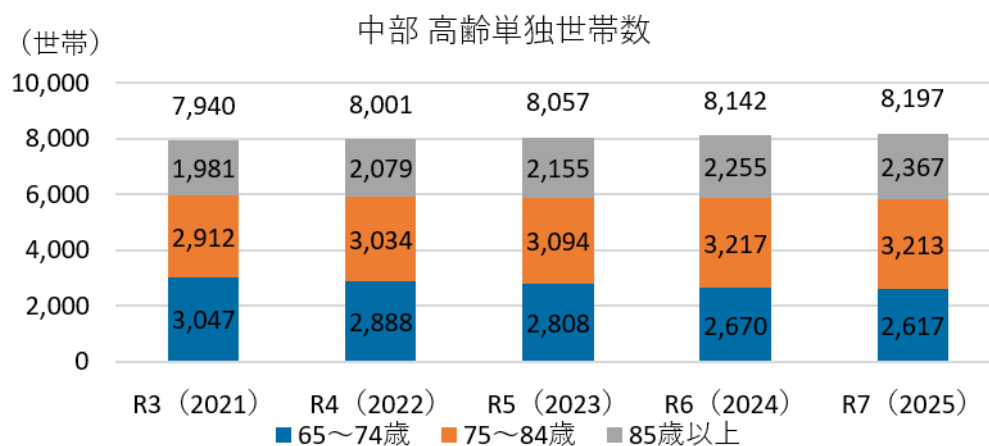
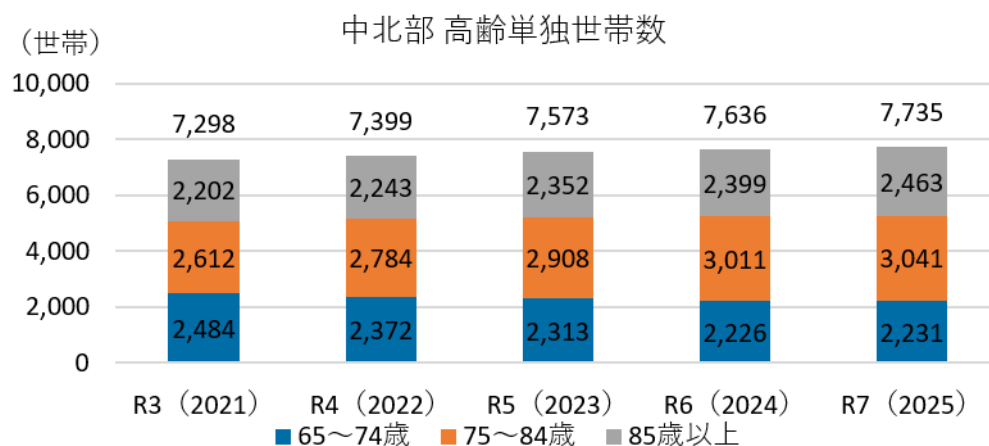


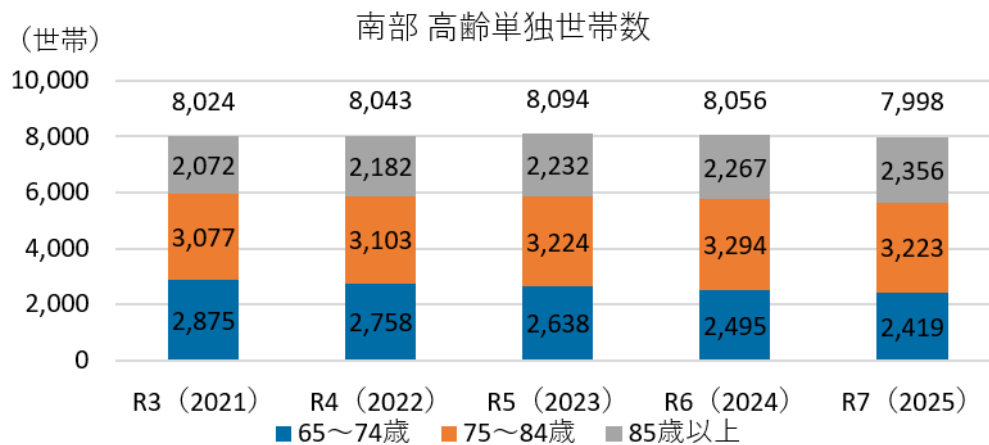


高齢単独世帯について7地域別に見ると、令和7年（2025年）の高齢単独世帯が多いほうから順に、中部（8,197世帯）、南部（7,998世帯）、中北部（7,735世帯）、北東部（5,335世帯）、北部（4,125世帯）、東部（3,496世帯）、西部（2,003世帯）である。もっとも高齢単独世帯が多いのは、令和5年（2023年）までは南部だが、令和6年からは中部である。

令和3年（2021年）から令和7年（2025年）にかけての増加数は、多いほうから順に、北部（598世帯・17.0%）、中北部（437世帯・6.0%）、東部（327世帯・10.3%）、北東部（292世帯・5.8%）、中部（257世帯・3.2%）、西部（219世帯・12.3%）である。南部（▲26世帯・▲0.3%）だけは減少している。







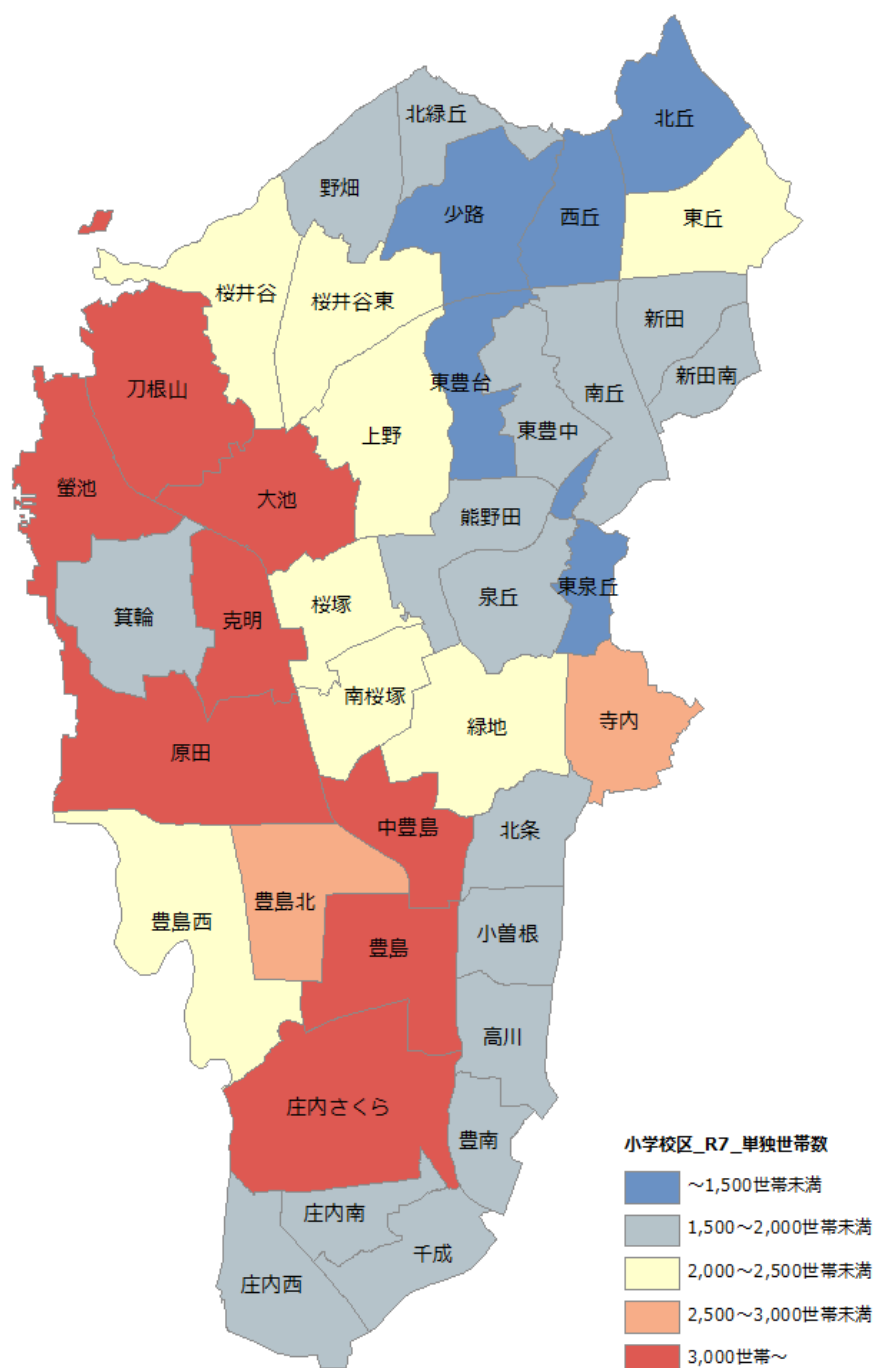
(3) 小学校区

令和 7 年（2025 年）の単独世帯数を小学校区別に見ると、単独世帯が多い校区は順に、庄内さくら（8,550 世帯）、豊島（4,792 世帯）、蜷池（3,706 世帯）、刀根山（3,528 世帯）、中豊島（3,227 世帯）である。

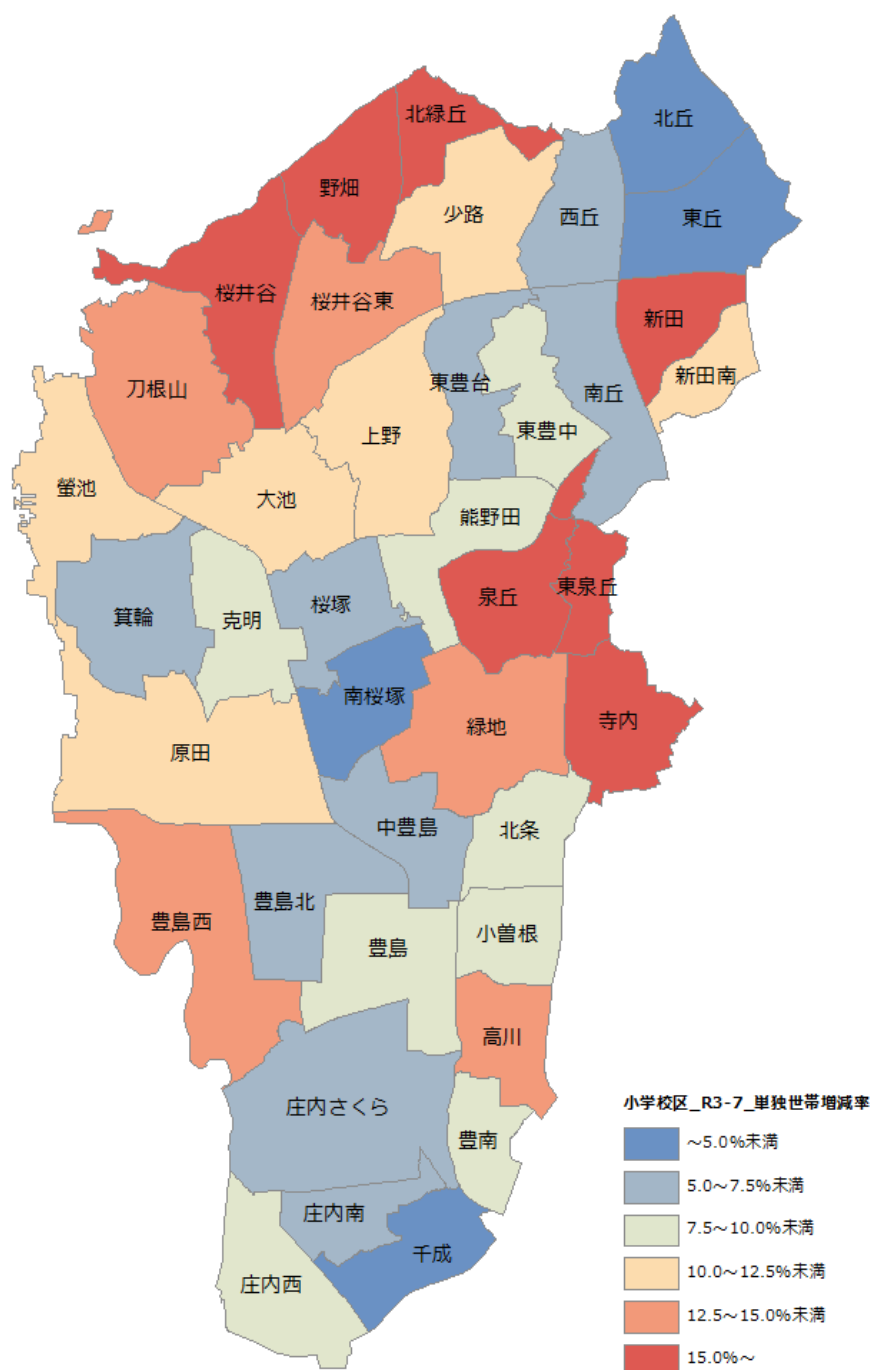
令和 3 年（2021 年）からの単独世帯数の変化を見ると、すべての校区で増加している。

単独世帯の増加率が高い小学校区					単独世帯の増加率が低い小学校区				
	R3	R7	増加数	増加率		R3	R7	増加数	増加率
北緑丘	1,128	1,517	389	34.5	北丘	1,386	1,406	20	1.4
東泉丘	834	982	148	17.7	東丘	1,950	2,006	56	2.9
泉丘	1,502	1,757	255	17.0	千成	1,673	1,725	52	3.1
桜井谷	2,059	2,393	334	16.2	南桜塚	2,308	2,405	97	4.2
野畑	1,676	1,943	267	15.9	庄内南	1,838	1,930	92	5.0
					中豊島	3,073	3,227	154	5.0

小学校區別 令和 7 年（2025 年）單獨世帯數



小学校区別 令和 3～7 年（2021～2025 年）単独世帯増減率

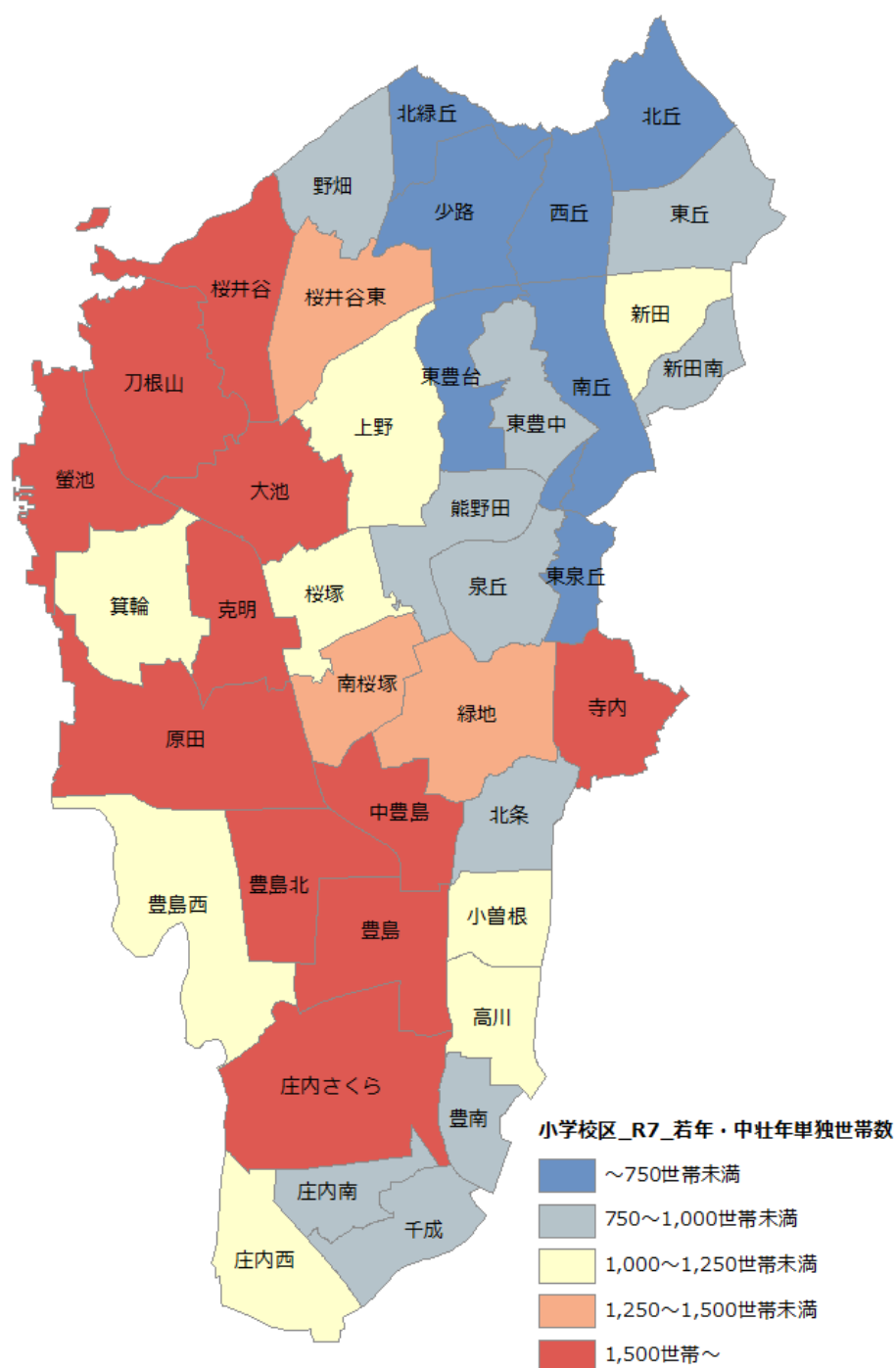


令和 7 年（2025 年）の若年・中壮年の単独世帯数を小学校区別に見ると、多い校区は順に、庄内さくら（5,085 世帯）、豊島（3,071 世帯）、蜷池（2,602 世帯）、刀根山（2,269 世帯）、中豊島（2,043 世帯）である。15～64 歳人口に占める単独世帯の割合が高い校区は順に、蜷池（37.9%）、豊島（37.1%）、庄内さくら（37.0%）、高川（30.0%）、克明（29.0%）、庄内西（29.0%）である。同割合が低い校区は順に、少路（7.9%）、東泉丘（8.9%）、西丘（9.2%）、東豊台（10.7%）、上野（10.8%）である。

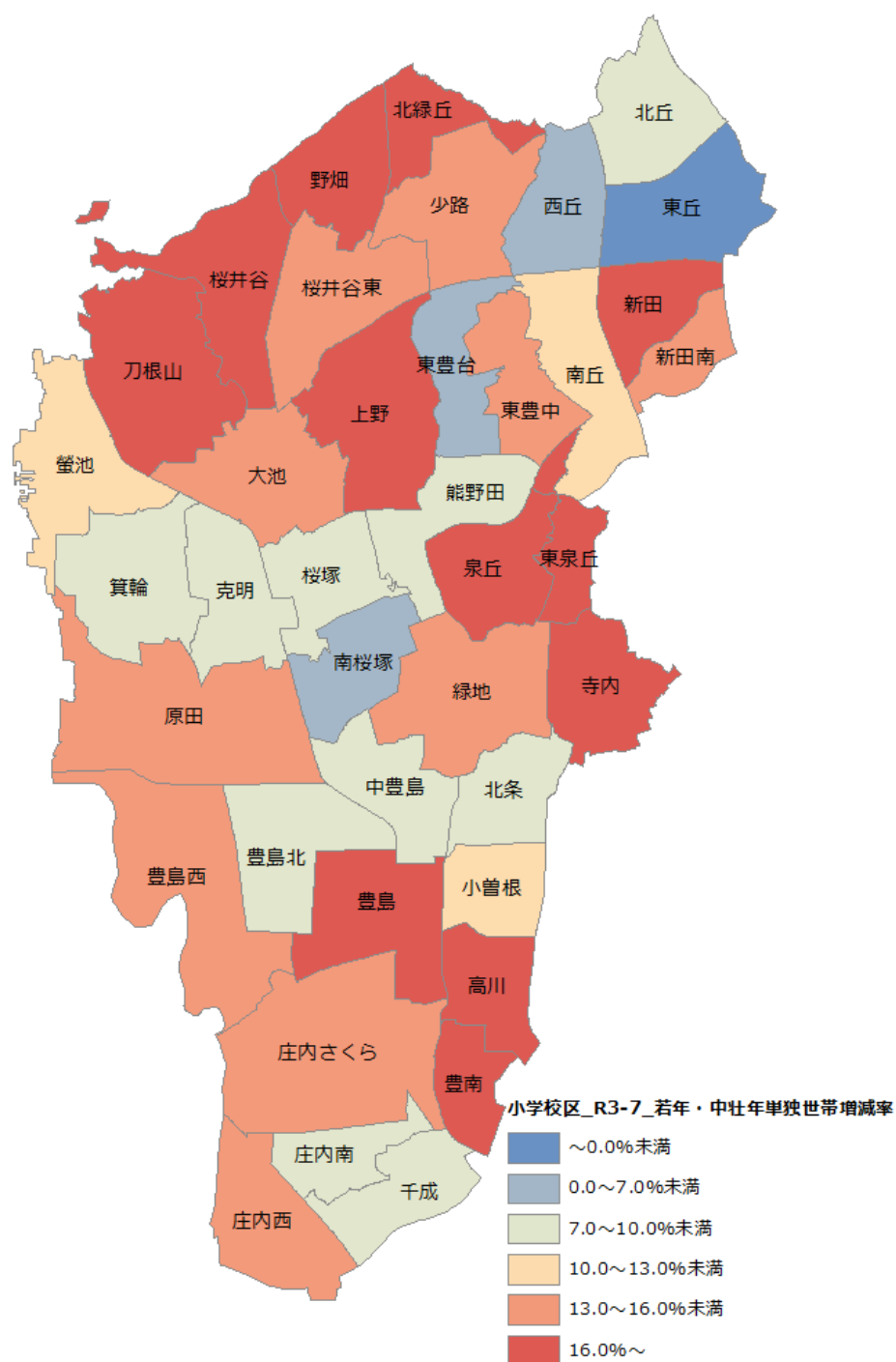
令和 3 年（2021 年）からの変化を見ると、減少しているのは東丘（▲17 世帯・▲2.0%）のみである。若年・中壮年の単独世帯の増加率が高い校区は、以下のとおりである。

若年・中壮年の単独世帯の増加率が高い小学校区				
	R3	R7	増加数	増加率
桜井谷	1,316	1,604	288	21.9
北緑丘	486	585	99	20.4
泉丘	702	843	141	20.1
上野	925	1,109	184	19.9
野畑	795	952	157	19.7
東泉丘	413	492	79	19.1
寺内	1,548	1,829	281	18.2
豊南	841	990	149	17.7
高川	982	1,154	172	17.5
刀根山	1,939	2,269	330	17.0

小学校区別 令和 7 年（2025 年）若年・中壮年単独世帯数



小学校区別 令和 3～7 年（2021～2025 年）若年・中壮年単独世帯増減率

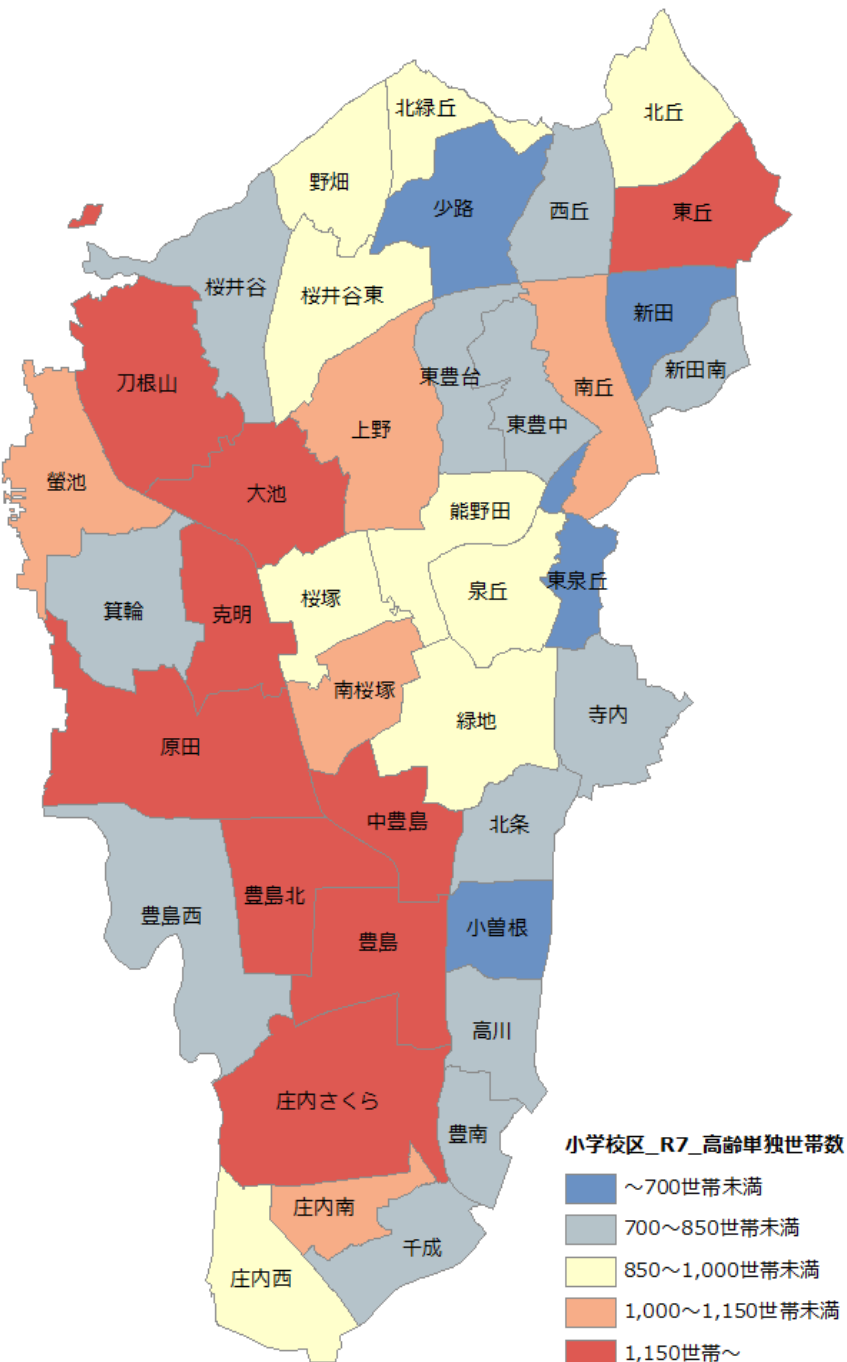


令和 7 年（2025 年）の高齢単独世帯数を小学校区別に見ると、高齢単独世帯が多い校区は順に、庄内さくら（3,465 世帯）、豊島（1,721 世帯）、刀根山（1,259 世帯）、大池（1,249 世帯）、克明（1,209 世帯）である。65 歳以上人口に占める単独世帯の割合が高い校区は順に、豊島（48.5%）、庄内西（48.3%）、庄内さくら（48.2%）、豊南（45.8%）、高川（44.1%）である。同割合が低い校区は、新田（25.0%）、少路（25.9%）、上野（28.2%）、東泉丘（29.0%）、桜井谷東（30.6%）である。

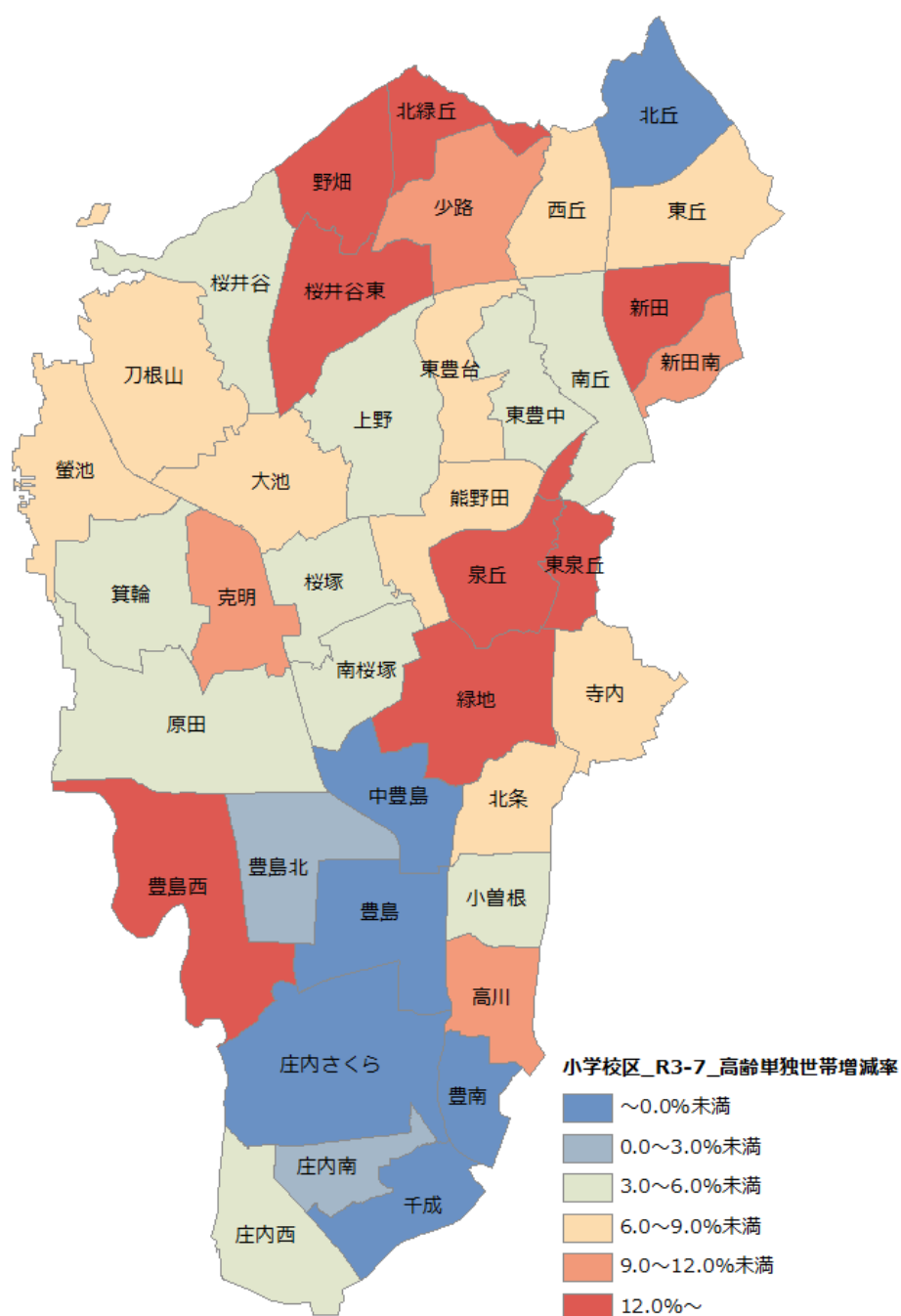
令和 3 年（2021 年）からの変化を見ると、高齢単独世帯が減少しているのは庄内さくら（▲104 世帯・▲2.9%）、豊島（▲56 世帯・▲3.2%）、北丘（▲18 世帯・▲2.0%）、豊南（▲18 世帯・▲2.2%）、千成（▲17 世帯・▲2.2%）、中豊島（▲4 世帯・▲0.3%）である。高齢単独世帯が減少している校区は年々増えている。高齢単独世帯の増加率が高い校区は、以下のとおりである。

高齢単独世帯の増加率が高い小学校区				
	R3	R7	増加数	増加率
北緑丘	643	932	289	44.9
東泉丘	421	490	69	16.4
豊島西	725	837	112	15.4
緑地	807	926	119	14.7
泉丘	801	914	113	14.1
桜井谷東	755	855	100	13.2
新田	494	558	64	13.0
野畑	881	991	110	12.5
少路	628	695	67	10.7
高川	640	702	62	9.7

小学校區別 令和 7 年（2025 年）高齢單獨世帯数



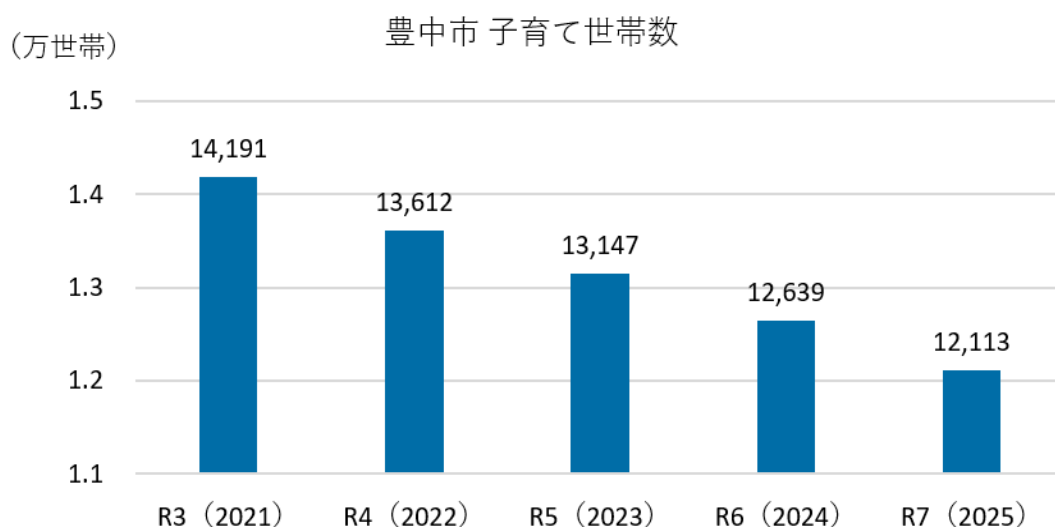
小学校区別 令和 3～7 年（2021～2025 年）高齢単独世帯増減率



2.3 子育て世帯

(1) 全市域

子育て世帯（0～4歳と世帯主がいる世帯）³について、令和3年（2021年）以降の推移を見ると、一貫して減少傾向にある。令和7年（2025年）の子育て世帯数は12,113世帯であり、令和3年から▲2,078世帯（▲14.6%）の減少である。平成30年（2018年）から令和4年（2022年）までの5年間の減少数は▲1,216世帯（▲8.2%）、令和元年（2019年）から令和5年（2023年）までの5年間の減少数は▲1,535世帯（▲10.5%）だったため、減少のペースは年々早くなっている。

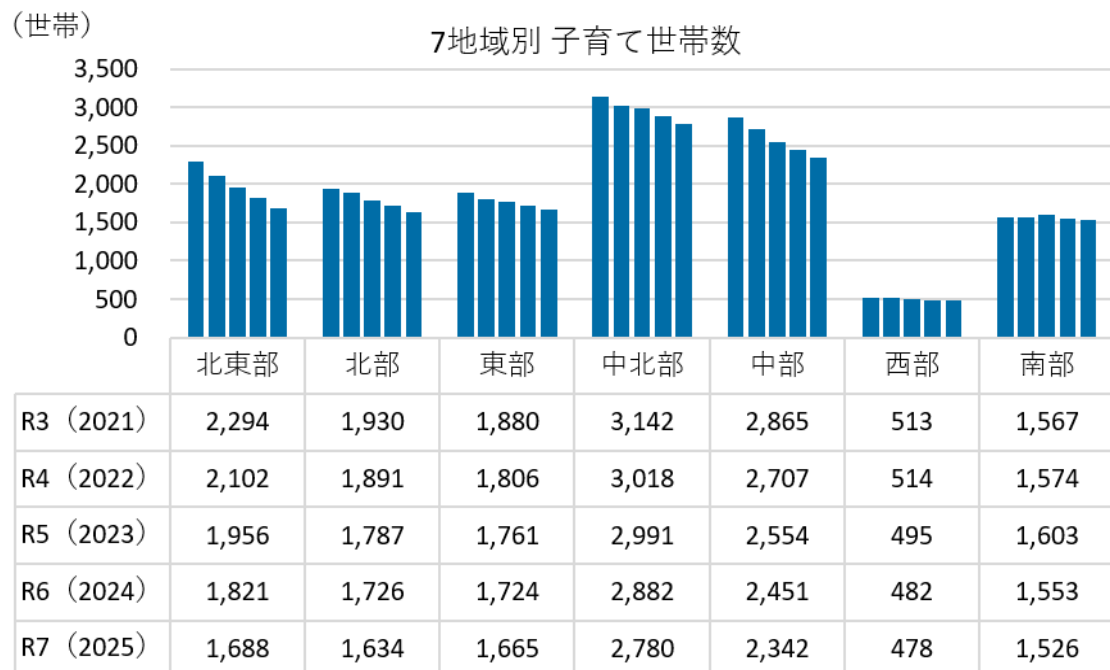


(2) 7 地域

令和7年（2025年）における子育て世帯数は、中北部（2,780世帯）、中部（2,342世帯）、北東部（1,688世帯）、東部（1,665世帯）、北部（1,634世帯）、南部（1,526世帯）、西部（478世帯）の順で多い。全世帯数に占める子育て世帯数の割合は、東部（7.8%）、北部（6.6%）、北東部（6.5%）、中北部（6.3%）、中部（5.6%）、西部（4.8%）、南部（4.7%）の順に高い。

令和3年（2021年）からの変化を見ると、すべての地域で減少傾向にある。減少数が多いほうから順に、北東部（▲606世帯・▲26.4%）、中部（▲523世帯・▲18.3%）、中北部（▲362世帯・▲11.5%）、北部（▲296世帯・▲15.3%）、東部（▲215世帯・▲11.4%）、南部（▲41世帯・▲2.6%）、西部（▲35世帯・▲6.8%）である。

³ 本レポートでいう子育て世帯とは、同じ世帯番号に0～4歳と世帯主がいる世帯をさす。



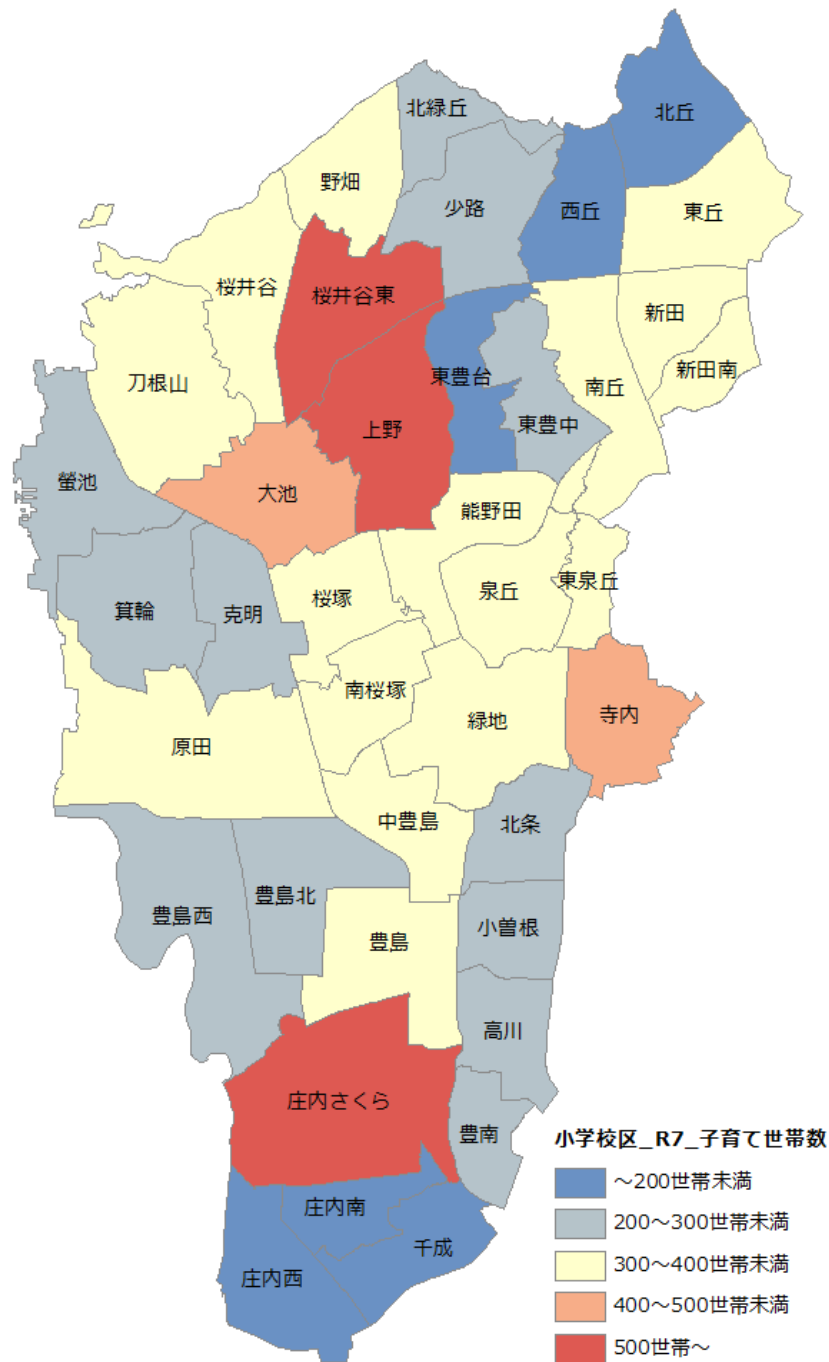
(3) 小学校区

令和 7 年（2025 年）の子育て世帯数を小学校区別に見ると、子育て世帯が多い校区は順に、庄内さくら（551 世帯）、桜井谷東（520 世帯）、上野（504 世帯）、大池（465 世帯）、寺内（460 世帯）である。

令和 3 年（2021 年）からの子育て世帯の増加率が高い校区、低い校区はそれぞれ以下のとおりである。子育て世帯の増加率がプラスの校区は 3 つのみである。

子育て世帯の増加率が高い小学校区					子育て世帯の減少率が高い小学校区				
	R3	R7	増加数	増加率		R3	R7	減少数	減少率
庄内さくら	523	551	28	5.4	北丘	262	148	▲ 114	▲ 43.5
小曽根	226	237	11	4.9	南丘	499	310	▲ 189	▲ 37.9
千成	178	180	2	1.1	東豊台	265	171	▲ 94	▲ 35.5
					西丘	268	182	▲ 86	▲ 32.1
					桜井谷東	719	520	▲ 199	▲ 27.7

小学校区別 令和 7 年（2025 年）子育て世帯数



小学校区別 令和 3～7 年（2021～2025 年）子育て世帯増減率

